

大念佛

No.91
発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 吉村暉英

コロナ禍のお盆

融通念佛宗 宗務総長 田中 瑞修



未曾有のコロナウイルス災禍の中、檀信徒皆様への感染を危惧いたしておられます。この状況下で本山の主たる法要、行事も全て縮小され参詣者を迎えることのない勤めとなっております。ようやくワクチン接種も始まり先に少し光明がさしてきた感を受けます。お盆以降の行事からは極力平常の姿に戻し、参詣もいただけるようにしてまいりたいと考えております。本山におきましては感染症と戦っておられる患者の回復を願い、亡くなられた方々の冥福を祈るとともに、コロナの一日も早い終息を毎日祈念しております。

一三〇〇年ほど前から勤められていたといわれます。当初は宮中の行事であったのが、奈良時代になり武家や貴族に広がり毎年勤められるようになりました。鎌倉時代になると一般庶民の先祖供養の信仰と一体化して仏様、ご先祖様に供物を供え供養するようになり、江戸時代には檀家制度が制定され、菩提寺より各家へ先祖供養に参る今日の姿になりました。このようにお盆の法要は長い年月をかけて今日に伝えられたのです。

お盆の起源はお釈迦様在世のころに遡ります。盂蘭盆とは「ウランバナ」という言葉で「逆さ吊りの苦しみ」を表しているといわれます。お釈迦様の十大弟子の一人、神通力第一といわれた目連尊者がその神通力で亡き母の今の姿を見ようとします。極楽の世界に安住しているものと探しますが、姿はありません。まさかとの思いで地獄界を探しますと、あ

のふくよかだった母が、骨と皮にやせ細り、飲み物食べ物を乞い求める醜い姿となって、地獄の責め苦を受けております。目連尊者はお釈迦様に助けを求め、なぜあれほど慈愛に満ちた母が地獄に落ちなければならぬのか。母親を餓鬼道の世界より救うにはどうすればよいかを尋ねたところ、お釈迦様はあなたの母親は慈悲深い人であった。しかし、それは尊者や身内に対してだけであり、他人には布施することなく冷たい人であった。そのために地獄に落ちたのである。母親を餓鬼道より救うには母親一人を救うのではなく同じ苦しみの中にいる人を普く救わなくてはならない。七月十五日になれば僧侶の夏の修行が終る。修行を終えた僧侶を招き百味の飲食の供養をしない。そして三界の万霊に対して山海の珍珠を供え、僧侶に法要をしてもらえば餓鬼道に落ちた人々も母親も救うことができる」と説かれました。この教えが二五〇〇年にわたって受け継がれているのです。

目連尊者の母親はお釈迦様の教示により地獄の苦しみの世界より極楽の世界の安楽な世に生まれ変わることができました。

人の世で苦しい人生を歩みたいと願う人は誰もいません。幸せな人生を歩み最後は苦しむことなく極楽浄土へと旅立ちたいと願うのではないのでしょうか。安楽な境地、世界とはどのようなものでしょうか。

今ある生活がもっと向上し寿命が延び病気にもならず、自分の思い描いていることが実現していく。衣食住の満ち足りた日々を送る、こんな世界も安楽な世界でしょう。お釈迦様はこのような世界の他にもっと不便であっても安らかな人生を送る方法があると説かれています。多数の方がご存じの般若心経の一説に

「心無罣礙無罣礙故無有恐怖」

「心に罣礙なし罣礙なきが故に恐怖あることなし。」惜しい欲しいとのこだわりの心、欲の心を捨てることにより清浄な穏やかな心になることができる」と説かれております。お金を求め、地位を求め、物を求め豊かな衣食住を望む。たとえこの望みが叶ったとしてもそれは一時の喜び、満足に過ぎない。この世の中は諸行無常、常なるものは何もない。全てが刻一刻と移り変わっている。人もやがては老が迫り、病気になる、この世を去っていかねばならない。自分の物と手にしたものは全て一時の預かりもの。自分のものは何も無い。裸で去って行かなければならない。むなしい世の中です。お釈迦様は私達に惜しい欲しいと求めこたわ

る心を捨てることで、不変なる喜び安楽の境地を得ると説かれています。現在コロナ禍の中で求められているのは何でしょうか。コロナウイルスの終息、元の家庭、社会生活に戻ることでしょ。二年前の何の変わりもない普段通りの日常生活が、日本だけでなく世界の社会機能が動く原動力でした。普通の日常生活が送れることがどれ程ありがたいかを痛感しています。

今年もコロナ禍の下でお盆を迎えることとなりますが、あたりまえと過ごしてきた心持をおかげ様と転換するよき機会としてください。

今日の一日に感謝し、おかげ様と父、母、ご先祖様の霊をお迎えください。

また、学習部門である「仏教講座」につきましてもホームページで映像配信を始めておりますので、万部法要同様「動画」をご活用頂ければ幸いです。

コロナ禍の中での大念佛寺万部法要

恒例の五月一日から五日の万部法要。今年も新型コロナウイルス感染症予防対策のため、昨年に引き続き規模を縮小して総本山職員のみによる法要執行ということになりました。



午後二時からの本行ですが、前回は田中瑞修宗務総長が導師を、本行は吉村暉英管長が導師、本年度紫金職の箸尾良薫師が副導師を勤められました。昨年同様多く寄せて頂きました塔婆を出仕者全員で回向いたしました。

在家伝法について(八)

融通念佛宗管長 吉村 暲 英

第六 総礼式

光明遍照 十方世界

念仏衆生 撰取不捨

(弥陀の) 光明は遍く十方の世界を照らし、念仏の衆生を撰取して捨てたまわず

阿弥陀仏の光明はあらゆる世界を隈なく照らして、ささぎるものがない。そして念仏を称える人びとを必ず救いとおとすことと、これは観無量壽経の有名な一節です。口称念仏という最も易しい行いによって仏の救いに預かることができる」と端的に述べられています。

ここでは念仏を努め励んで、念々に相続することの有難さを説いています。

この御文は「光明文」または「撰取偈」というのですが、この儀式を総礼式というのは、法要の会座に居合わせるすべての人が、鉦に合わせてお念仏を唱和するところから名づけられたからです。皆ともどもに心をこめて「なむあみだぶつ」と大きな声で唱和する。これが、「総礼」ということです。伝法の堂内に、念仏の音が響きわたる様はまことに勇壮なもので、悪魔諸障も近づくことができません。この総礼式と次の回向式は、伝

法の最終日に修せられることが多く、行人もここへ来てお念仏の声も自ずと高まっていくのです。

第七 回向式

願以此功德 普及於一切 我等与衆生 皆共成佛道

願わくはこの功德を以って、普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆ともに仏道を成ぜんことを

回向とは自らが積んだ、または修めた善根功德(よき行い)によって生じた徳)を人びとにふり向けることです。

この御文は法要の最後に称えるもので、いわば一座法要の締めくくりといえるでしょう。

各自が修めた法の喜びや善根功德をわが一人のものとするのではなく、みんなに分ち合うことによつて、喜びはさらに大きくなっていくのです。また悲しみは分かち合うほどに少なく軽いものになっていくのです。

回向の心は、まさに人と人との絆の中にはぐくまれていくものというべきでしょう。伝法七重式は以上の通りですが、伝法にはそれ以外に大切な儀式があります。

剃髮式

「おかみそり」の呼称で知られていますが正式には出家得度式といえます。そのとき授与される御文は辞親偈といわれる次の句です。

流転三界中 恋愛不能脱 棄恩人無為 眞実報恩者

(三界という迷いの世界の中に浮きつ沈み

つしながら生きていく 私たちは、憎い、愛し

いなどの感情に左右されながら、苦悩の人生を離れることができないでいる。今こそ妄執を断ち切つて、眞実のめざめに生き抜こう)

頭上に剃刀(かみそり)を戴き、世俗の虚飾(派手な飾り立て。外見ばかりを飾ること)

を断つために、髪を剃り落とすのですが、在家伝法では頭髪のごく一部を切るにとどめて



お手判式



剃髮式

います。これは心の中の乱れ髪を切り捨てる仕事です。

得度式を受けることによつて、身は在家でありながら、心は出家者となつていただくのです。

優婆塞とは在俗のまま出家者となつた成年男子のことで、禪定門士(禪定門)の称号を、優婆夷とは在俗のまま出家者となつた成年女子のことで、禪定門尼(禪定尼)の称号を授かります。

このように伝法の行人には、男は禪定門、女は禪定尼という仏門に帰依(依りすがること)した称号が付いた戒名が授与されます。

戒名といえは死んで付ける名前のように誤解している人が多いですが、本来、生前に付与されるのが望ましいのです。

戒名とは一定期間の行法によつて、仏さまの戒法(いましめ)を学び仏弟子としてのあるべき道を修め剃髮式を伝授されることによつて戴く名前のことです。

しかし、生前、戒名伝授の縁がなかった人は葬儀に先立ち、受戒作法と剃刀式を授かることによつて戒名を授かります。

また、伝法を受ける機会がなかった人には位牌を身代わりとして入行することができます。(位牌伝法という)

日課勸進式

この儀式で融通念佛宗の信者は一日百遍の念仏を称えること

を誓約します。その時の御文は次の通りです。

融通念仏尽未来際 日課浄業

一人一人 一人一人

一行一切行 一行一切行

十界一念 融通念仏

億百万遍 功德円満

(念仏百遍 鉦を用う)

次に念仏百遍のあとに称える御文があります。

念仏同行 諸天善神

天龍八部 閻魔王界

日本國中 三千余座

天神地祇 八百万神

鳥羽上皇 女院百官

道俗男女 古今一切群類

各一結

弥陀所伝 融通念仏

億百万遍 決定往生

(念仏十遍)

日課念仏は高声念仏が望ましい。

高声(大きな声)は邪気を払い、

睡眠(普通にいう眠り)の他に、迷

いの心をさす)を除くのに効果が

あるからです。

日課念仏は宗祖良忍上人のとき

から絶えることなく続いている念

仏勸進の方法です。すなわち勸進

帳または名帳と称する帳簿に名前

を記入した人は、すべて古来から

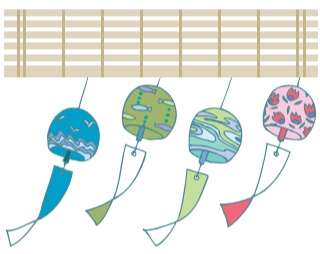
今に至るまで名帳結果として一つ

に結ばれている同行同伴です。

日課勸進で今一つ大事なことは「神名帳」といわれるものです。



お手判式



完

は平安時代初期、伝教大師（最澄）によって日本へ伝えられ、比叡山に大乘戒壇が開かれました。良忍上人もこの戒によって出家得度されました。

円頓戒は三聚淨戒という三つの柱に要約されます。第一、撰律儀戒（悪いことを止めること）第二、撰善法戒（よいことをすすんで行うこと）第三、撰衆生戒（人びとのために尽くすこと）この戒は細目にこだわらず止悪、修善、利益衆生に励むことをめざすところに特色があります。

詰まるところ伝法は円頓戒道場と本伝道場に入道場することにより親しく法門を伝授されることであるといえます。

融通念仏の大切な法門は、本伝道場に於いて授かるわけですが、それゆえ伝法の名があるわけですが、勤行（おつとめ）水行、礼拝等の行は、法を授かるための予備的な行であって、これを「加行」といいます。加行なくして伝法はありえないのです。加行を励むことによって、伝法を受くるに足る人格が陶冶されるのです。

良忍上人の念仏勸進を陰ながら助けた鞍馬寺の多聞天王（毘沙門天）は、融通念仏の功德の大きさに感銘し、神々の世界にも融通念仏を勧め、日課百遍の誓約を取り付け、天治二年（一一二五）四月四日、良忍上人に手渡しました。これが神名帳で、上は梵天、帝釈、日月天子等をはじめ、下は閻魔王界に至り、及び伊勢両宮、春日、住吉、北野天神等日本中の八百万天神地祇の名が星のごとく記されていました。

本堂正面に掲げられた十一尊天得如来から、伝法和尚（当代住職）が法の流れを表示する朱判を行人の血脈譜に押す儀式です。融通念仏の法門は阿弥陀如来から良忍上人、歴代上人、末寺住職、伝法行人へと伝わってきたことを、師資相承といえます。（資は弟子のこと）父の血が子に伝わっていくことにたとえているのです。

円頓戒道場
仏さまのいましめを戒、または戒律といいますが、戒律と一口にいつても実に多様な種別が説かれるに至りました。そのうち円頓戒

本伝道場
融通念仏の大切な法門は、本伝道場に於いて授かるわけですが、それゆえ伝法の名があるわけですが、勤行（おつとめ）水行、礼拝等の行は、法を授かるための予備的な行であって、これを「加行」といいます。加行なくして伝法はありえないのです。加行を励むことによって、伝法を受くるに足る人格が陶冶されるのです。



叡福寺御廊前

通念仏縁起』には「そせいおうが島までも（蝦夷、硫黄が島すなわち北は北海道から南は西南諸島までも）これを勸進せんとなり」と良忍上人の念仏勸進弘通の様相について書かれたりして、全国に上人の唱える融通念仏が広がっていったことの証しともなっています。そしてまた、沈む

今年二〇二二年は聖徳太子一四〇〇回御遠忌の年でもあり、大念佛寺から関連の法要に出仕いたしました。

聖徳太子は宗祖良忍上人在世の時から今日に至るまで、九百年にもわたる長いご縁があり、大念佛寺の開創の上で、また「時正会」という法要継承の上で、大阪難波の四天王寺を舞台にしまして深いご縁を頂き連綿として繋がりを保たさせて頂いています。春と秋のお彼岸の中日（春分と秋分の日「時正」）には四天王寺境内南側にあります阿弥陀堂において、踊躍念佛の歓喜会「時正会」が行われ、多くの参詣者を集めて俱会一処の結縁が結ばれます。この法要は「融通大念佛会」ともいいます。まさに融通念仏宗と四天王寺を繋ぐ重要な法要となつていきます。

そもそも、良忍上人の四天王寺と

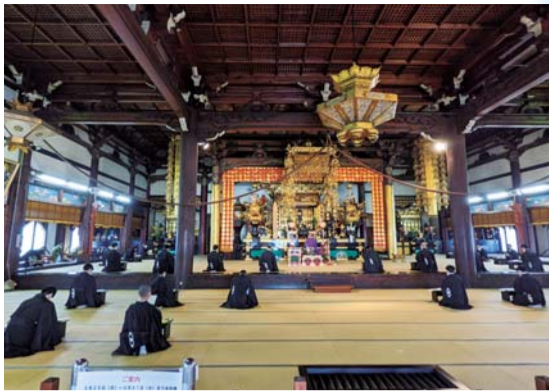
この縁は、良忍上人が念佛勸進の遊行巡歴の途中、四天王寺に詣でられたその夜、聖徳太子の夢を見られたことから始まります。大治二年（一一二七）のこと、聖徳太子は良忍上人に「ここ四天王寺より東南杭金の里に念仏道場を建つべし」とのお告げをされ、これを受けて、良忍上人は摂津平野杭金の里に念仏道場（現在の大念佛寺）を始められました。このように聖徳太子と良忍上人は大念佛寺開創に掛かるご縁を持つています。元禄二年（一六八九）大念佛寺から四天王寺に出された「祈禱状」や「時正会状」さらには『融通念仏宗三祖略伝』にも、時正会は良忍上人から始まると伝えてあります。

良忍上人は当に阿弥陀如来が伝える所の融通念仏の行者であって、日本六十余州を悉く廻られました。『融

良忍上人と聖徳太子
聖徳太子一四〇〇回
御遠忌にまつて

- 四月三日 法隆寺 聖徳太子毫千四百年御聖譚大会 管長 峯下 来實 参列
 - 四月十三日 叡福寺 聖徳太子千四百年御遠忌大法会 管長 峯下 導師、讚師、菩薩（四体）、楽役、大念佛寺職員計四十名 出仕
 - 十二月三日 四天王寺聖徳太子千四百年御聖慶讚大法会 依頼に基づき出仕の予定
- 夕日を西に拝みながら四天王寺西門に於いて、道俗男女の大勢の人々に融通念仏の輪に入り、勸進帳（名帳）に名前を記して、融通念仏信仰の道に進めるよう勸進なされました。このように聖徳太子開創の四天王寺をご縁に「時正会」が生まれますが、四天王寺そして聖徳太子は当時日本の仏教信仰の柱をなす人々の精神的な拠り所でありました。いわゆる「太子信仰」です。良忍上人の念仏布教の広がりについて、「太子信仰」という庶民信仰の全国的な広がりの基盤に大いに助けられるかのように、また庶民生活の心の拠り所であり続けた「太子信仰」に寄り添いまた導かれるように、民衆の心に深く根差す形で、全国に融通念仏は広く弘通していききました。
- まことに良忍上人と大念佛寺における聖徳太子との繋がりは、四天王寺を介して大きく、深いものがあり、信仰の面では必然的な出会いであったとも思われるくらいです。元祖聖徳太子の御心に應じつつ・・・という意味合いがあるとさえ言われています。

げ あん ご 夏安居



僧侶の卵たちが夏安居という七日間の修行を受けました。コロナ禍のため昨夏は中止になりましたが、今年三月二十五日に延期実施されました。修行僧の人数を制限し、マスク着用など感染予防に配慮して行われました。毎日三度行われる勤行においても本堂全体に行人が広がりソーシャルディスタンスをとりました。

夏安居は古代インドの雨期における修行に起源を發します。雨期は外での托鉢(たくはつ)そのものが難しく、また多くの虫などが活動する時期でもあり無為な殺生をしまいがちです。そのため外出しないで、一定期間寺院などに籠もって修行しました。それが中国を経て日本に伝わり、現在も多くの宗派で夏安居の修行が行われています。

本宗でも夏安居を通して、融通念佛宗の僧侶としての素養を身につけ、そして僧侶としてのあるべき姿を学びます。

一日の始まりは、午前五時の起床。



身を清めて朝の勤行(晨朝 半齋諷經)となります。朝はそのあと祖師の参拝、諸堂参拝があり、七時半頃に朝食となります。

勤行は十時に日中勤行、午後三時に日没勤行。約一時間から一時間半のお勤めです。

食事の後は少し休憩をばさんで講義や講習があります。融通念佛宗の歴史や教義、作法などを修得します。

また、食事の時は食時作法があります。自然の恵みと多くの「おかげ」に感謝する偈文などを唱えて、静かに食事が始まります。

人間もふくめこの世に存在するすべてのものは網の目のように繋がっていて、良くも悪くも互いに関わり合いを持って生きています。そんな世の中だからこそ、この修行を通じて他者のことを思いやる僧侶になって欲しいと心から願っています。



大念佛寺年中行事(八月〜年末)について

「新型コロナウイルス」感染拡大の状況を鑑み諸行事に関して山内限りの法要、または中止とさせて頂いたたく可能性が有ります。つきましては、「大念佛寺ホームページ」にて随時公表いたしますので、お手数をおかけいたしますがご確認いただきますようお願い致します。ご不明な折は下記のお問い合わせまでご連絡ください。

末寺巡礼 菩提長円寺(堺市)

菩提の地名は、天平年間 光明皇后によって当地に河内国分尼寺が創建されたとする伝承があり、同寺開基の天竺僧「菩提遷那」にちなんで地名が生れたと云われている。

長円寺は往古よりあり、慶長三年



善提の地名は、天平年間 光明皇后によって当地に河内国分尼寺が創建されたとする伝承があり、同寺開基の天竺僧「菩提遷那」にちなんで地名が生れたと云われている。

小径

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、菜園を新たな趣味として始める人が増えていると新聞に載っていました。

わたしもその一人です。果ごもりでたまったストレスの解消にもなることが人気だそう。わたしはコロナ禍でストレスは別に感じてはいませんが、自粛ばかりで出かけることが出来ないで以前から興味があった家庭菜園に挑戦しました。種まきそして毎日の水やりなど、植物を世話し成長していく中で「自分の手で育てている」充実感が生まれ、さらに「もうすぐ実がなるかな」という期待感から「実がなった」という達成感が味わえるの



ではないでしょうか。食物を育てることには心にさまざまなプラス感情をもたらすように思います。コロナ禍でのストレスを家庭菜園をして和やかな気持ちで過ごしてみませんか？
もうすぐお盆が来ます。自分で育て、収穫した野菜をご本尊様にお供え出来るのがとても楽しみです。
智微

年中行事ご案内

孟蘭盆・法界大施餓鬼

◎八月十六日(月) ■午後六時

万灯会

◎八月十六日(月) ■午後七時

大和御回在御出光

◎九月九日(木)

融通念佛会

◎九月十六日(木)

■午前十一時
ご一緒に念佛を称えまじょう。

百万遍会(大数珠繰り)

■午後一時

数珠繰りの後、法主親下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。

その後御札授与があります。

亀鉦まつり

◎十月十五日(金) ■午前十時

本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通教会会員による詠讃歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

胎内仏納骨法要

◎十一月三日(水文化の日)

■午前十一時・午後二時

十夜会

◎十一月十四日(日) ■午後一時
本堂に於いて布教、詠讃歌舞奉納等があります。(厄除がゆ施与)

「新型コロナウイルス感染症」の一刻も早い終息と皆様の暮らしが平穏へ向かうよう総本山より祈りを捧げます。

融通念佛宗 総本山 大念佛寺

後小松天皇忌

◎十二月一日(水) ■午前十一時

大和御回在御帰院

◎十二月十七日(金)

除夜法要

◎十二月三十一日(金) ■午後十二時
(鐘撞き、ぜんざい施与)

定例布教

◎毎月二十六日 ■午後二時三十分
(日曜日の場合は翌日になります)

◆行事予定は変更する場合があります。

★写経のご案内

毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(一巻 千円)を行っております。

★瓦勸進のご案内

一口二千円で本堂に於いて受け付けております。

●お問い合わせ

大念佛寺宗務所
☎〇六―六七九一―〇〇二六

融通念佛宗 総本山

大念佛寺

暑中御伺

法主	吉村 暉英
管長	田中 瑞修
宗務総長	吉井 良久
教学部長	好野 良博
庶務部長	佐々木智祥
財務部長	